

三世代、みんなが遊べる親子広場と

ゆったり広い散歩道

杉田洋子

四季折々の行事のたびに、子らと歩く乙川の河川敷。にぎやかな屋台や桜、新緑などの景色。川のカーブに映える赤い電車。歓声をあげる子らを目を細めて見守る祖父母。子供だ、た頃の夫と兄弟の思い出話がポツリポツリと始まります。

岡崎に数ある名所の中でも、この河川敷は特に多くの方の心のふるさとであることでしよう。あまり大きな開発は、何だかもったいない気がします。できるだけ現状を変えず、

多くの世代に優しい場所であって欲しいと願います。親子広場と散歩道を提案します。

親子広場には、今の乙川にかかる小さな橋をもう一つ。少し幅広で車椅子やベビーカーが通りやすいもの。混雑時は今の橋とあわせ、一方通行で使えるとうれしい。水面近くまでおりられる柵や手すりもつけて、そこは鯉のえさやりスペースにする。飛び石があれば、ちび、子が度胸試しに遊べる。夏だけは広めの、みんなのトイレが必要になるけど、川

に向か、て石投げ遊びができれば、世代超えで競争。一番はおじいちゃんかも。休けいスペー스는ベンチ型の遊具。電車の形なら最高名鉄鉄橋と並行して置けば、風景に溶けこむ。広場のシンボルは木登りの木。増水時に水没しても大丈夫なように人工の枝の短い木。間隔を工夫して二本以上。木登り遊びや木の間をゴールにしたミニサッカー。縄をつけ家族でも大縄跳び。高鬼ごっこ。ピクニックの拠点。みんなの笑顔が生まれる場所に。

東公園の福祉の店のような、小さな焼き菓子と飲み物。昔遊びの道具が置いてある移動販売車が来る。車内で商品が選べる形だと面白。殿橋・明神橋まで続くカラーの散歩道。車椅子やベビーカーがすれ違い、散歩の人もジョギングの人もぶつからない。橋から緩やかにスロープと手すりです誘導される、みんなのフリーロードとなる。

岡崎の象徴につながるリバーフロント。全ての世代の夢膨らむ場所となりますように。